

m a z a r a i n

みやぎ地域リハビリテーション懇話会 会報・第8号

2009

## ニッチを担って15年

ふくしまップ宮城 代表 伊藤清市

前身の仙台ふくしまップ作成委員会から来年で15年になる、私たちふくしまップ宮城の活動。仙台市街のバリアフリー情報誌「レモンちゃんのまちある記 in 仙台」、2001年の宮城国体に向けて開設した「レモンちゃんの休日」から、昨年4月「ゆにふりみやぎ」(右図)へとサイトをリニューアルしました。

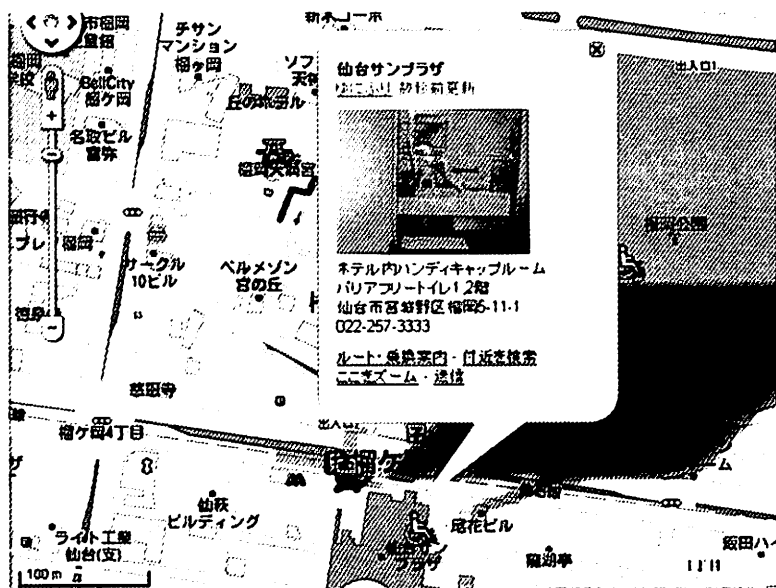
「ゆにふりみやぎ」というタイトルは、ユニバーサルデザインの「ゆに」とバリアフリーの「ふりー」を足した造語です。キャッチフレーズは、「ゆに (バーサル) で(バリア)ふりーな宮城・仙台ご案内!」。県内の方はもとより、観光等で来られる全国の方に宮城の魅力を発信したいという思いを込めて名づけました。

2009年10月31日現在、総アクセス数は75000を越え、これまで書いてきた記事も512に上ります。主な内容としては、宮城県内のバリアフリー情報、県内の障害者関係に関するイベントの紹介がほとんどです。

このように、情報発信媒体の変遷がありながら、私たちには活動当初からのモットーが3つあります。まず第一に、「楽しい情報の発信」。ホームページで多機能トイレの情報や点字誘導板の敷設状況を載せたとしても、それはあくまでも外出する際の

手段であり目的ではありません。そのため、サイトでも上図のようにグルメな情報やイベント情報を多数掲載しています。

第二に、「情報の階層化」。バリアフリーの情報は手段であるといっても、不特定多数の人が利用するパブリック施設は、設備が利用しやすい方もいらっしゃるが、難しい方もいらっしゃいます。私たちは、マップ上にプロットしたピクトグラム



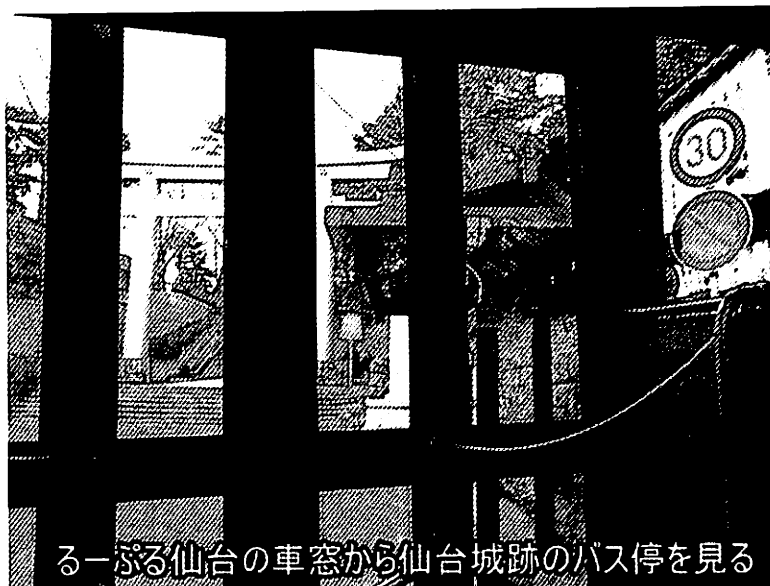
設備の使用の可否を判断していただきたいと考えております。(前ページ左下図)

また、情報の階層化には少数の利用者にとっては必要だけれども、一般的には公開されていない情報を伝えられることもあります。



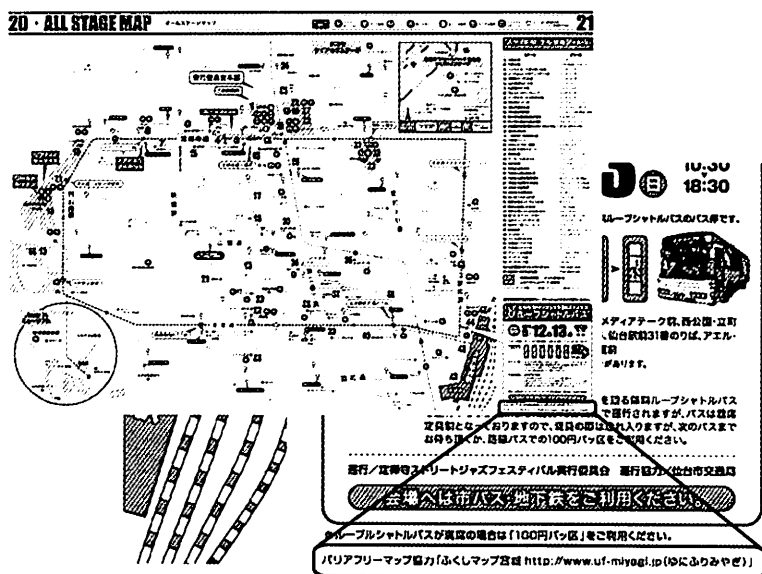
仙台市街を循環している「るーぶる仙台」は全車リフトかスロープ式になっており、基本的にどのバス停でも乗降できるのですが、「瑞鳳殿前」と「仙台城跡」の2箇所だけは降車できません。もう少し正確に言いますと、降車はできるのですが実際の目的地までたどり着けないのです。(右写真)

例えば「瑞鳳殿前」は参道前にバス停があるのですが、そこから車いすで上るのは困難です。また、途中のタクシー乗り場まで何とか車で行けたとしても、本殿に行くのは難しいでしょう。また、「仙台城跡」の場合、バス停が本丸北側にあるため相当数の階段を上らないと本丸会館や政宗騎馬像前には行けません。この場合、自家用車かタクシーで本丸会館前駐車場まで行く必要があります。



るーぶる仙台の車窓から仙台城跡のバス停を見る

この2点、仙台駅に常駐されている案内員の方からは説明があるのですが、仙台市交通局をはじめとしてWeb上には記載がないため、事前に計画立てて来られる観光客にとっては、出発時に知ることになり、計画



が台無しになってしまうことも考えられます。こういった、なかなか知るすべがない情報を詳細に発信できるのも、情報の階層化を大事にしているからだからこそと考えています。

第三のモットーは、「いつでもどこでもだれでも享受できる情報の発信」、つまり情報の市場性です。書店で販売されている道路地図やタウン情報誌等にバリアフリーが掲載されているのを目にすることがありますが、まだまだ一般的ではありません。それは無料で配布されている観光地のガイドブックやマップに関しても同じことが言えると思います。私たちは

活動を始めたころから、だれもが手に取れるものにバリアフリー情報が掲載されることこそ、ユニバーサルであると考えてきました。現在では、インターネットにより簡単にリンクができるようになりましたが、それでも紙媒体の重要性は変わらないと思いますし、デジタルデバイドの懸念もあります。私たちは、過去にいくつかのタウン誌にご協力いただき、書店売りの本にバリアフリー情報を掲載しましたが、今年の定禅寺ストリートジャズフェスティバルのオフィシャルガイドブックのバリアフリー情報掲載にもご協力させていただきました。(前ページ左下図)

このように、だれもが手にとれる情報にバリアフリー情報が掲載されることにより、市場が広がるとともに、利用者にとってはどこにでもあるという安心感、一般の方に対してはバリアフリーへの啓発にも繋がると考えています。

以上、私たちが大事にしてきた3つのモットーですが、情報の階層化と市場性には相容れない部分が多いことも事実です。前述した定禅寺ストリートジャズフェスティバルのマップには紙面の都合上、車いす対応

トイレの場所しかプロットできませんでした。一方、階層化を重視すると、ホームページならまだしも紙媒体では膨大な量になってしまい、かえって不便が生じてしまいます。

それでも私たちが目指す方向は情報のユニバーサル化。特別な人に対する特別な情報ではなく、だれもが手に取れる情報の中に私たちが必要な情報があり、それを様々な業界とネットワークを組み、広げていくことが重要であると考えています。そうすると、階層化を重視する私たちの役割は、情報の隙間(ニッチ)を埋めるものなかもしれません。でも、現代における社会の多様化複雑化でいえば、ニッチこそ21世紀のキーワードではないでしょうか。情報の市場性の拡大とニッチな活動のすみ分け。両者がうまくかみ合って、ユニバーサルな環境の構築に繋がっていきたいと思います。